



電子メールアドレス : o.fukusi@okinawa-j.jp

 **第 51 号**
 編集・発行
 社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団
 〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
 TEL 098-884-3173 (代)
 FAX 098-882-5688

ホームページ : <http://www.okinawa-j.jp/>



「療育音楽」について

重症心身障害児施設 沖縄療育園
保育士 宮里 紀子

音を楽しむという「音楽の原点」が、ここには有るような気がします。

毎週金曜日、療育音楽の練習が待ち遠しくて、数日前からワクワクしていたメンバーの瞳は、宝石のようにキラキラ輝き、自分のパートになると全身で音を表現しようとするひたむきさに何度心も熱くさせられました。

週一回、時間というわずかな時間ではありますが、一人一人の一生懸命さが大きなエネルギーとなり、それが喜びや充実感につながっていくと生活の中にも潤いが生まれてきます。

あるメンバーのご家族が十月に開催された「みんなの音楽会」をご覧になり、「まさか私の子どもが音楽会に参加するなんて！大舞台の上で曲に合わせて楽器を鳴らすなんて！会場から拍手をもらい恥ずかしそうに笑っている子どもの顔を見れるなんて！」と嬉しさのあまり手を取り合っただけの涙したことは、当園ならではの姿だと思えました。

みんなのやる気と一生懸命さが続く限り一人一人の存在を大切に頑張っていけると信じています。

決して上手でもなく派手さも足りない当園の療育音楽ですが、自分らしくキラキラ輝く事では、ピカイチです。

活発な質疑応答！

職員研究発表会及び QCCサークル活動発表会

平成二十一年二月三十日に当事業団の職員研究発表会が開催されました。昨年度から復活した研究発表会は、今年で三十三回目、QCCサークル活動発表会は四回目を迎えました。

午前中は特別講演として、当事業団の理事照屋義実氏に、「明日のわたしのために」と題して講演をしていただきました。

午後の発表会では、施設が取り組んできた研究やQCCサークル活動の発表を行い、会場からの質疑応答では時間いっぱい活発な意見や質問が出されました。

☆研究発表

- ①「経口摂取から経管栄養法へ移行した利用者の外泊支援の取組」
沖繩療育園 看護師 金武明義
- ②「行動障害のある利用者支援の一考察」
あけぼの学園 生活支援員 下地栄市
- ③「利用者のQOLの向上を目指して」
宮古厚生園 支援員 内原美和子

☆QCCサークル活動発表

- ①「剥離・擦過傷発生0%をめざして」
名護厚生園 支援員 工藤大二郎
 - ②「朝の体操への利用者の参加向上に向けて」
具志川厚生園 介護員 石川まさえ
- 発表会の際には、助言者として看護大学の佐久川政吉先生、人事・教育研究所の下地恵昇所長にお越しいただき、各施設への講評と助言をいただきました。ありがとうございます。



照屋理事



発表会の様子

研究発表を振り返って



養護・特養老人ホーム宮古厚生園
支援員 内原 美和子

養護職員となつて、追われるような毎日を過ごし、「養護（老人ホーム）」とはこのようなものなのか？と考え始めた時に、「研究発表」という機会が与えられました。

取り組みを通し、利用者様と「ふれあう」時間が多くなつた事で、「今、何を求めているのか？」を常に考えるようになり、以前のような慌ただしさも感じられなくなりました。そして、利用者様一人一人にも「笑顔」や「やる気」が見られ、「ふれあう」事の大切さを深く考えさせられました。

これを機に、利用者様とご家族とのよりよい関係を築けていけたらと思います。また、助言者の皆様からは、きめ細やかなご助言を頂き、ありがとうございます。

これから以上にご利用者様の事を考え、職員一丸となつて頑張つて行きたいと思ひます。



QCC発表施設の取組



養護・特養老人ホーム名護厚生園
支援員 工藤 大二郎

名護厚生園は、事故対策委員会を中心に「剥離・擦過傷発生0%を目指して」というテーマでQCC発表をさせていただきました。各施設の素晴らしい発表を聴かせていただいた中で、若干物怖じしてしまいましたが「我々も出来る限りの事はやった」と発表に望みました。

発表に至る準備を振り返りますと、名護厚生園全体で協力し、準備を進め、委員会メンバーに至つては夜勤明け職員や週休の職員も前日まで発表準備をしたりと、少しでも良い結果を残そうと必死で取り組んできました。そして発表を終え、安堵したと同時に、データの不備など様々な課題が浮き彫りになり、また我々には気付けなかった事を、助言者の下地先生からアドバイスをいただき、次年度へ向けての新たな課題となりました。

今回の発表での経験を生かし、更に内容を昇華させていき、ひいては利用者処遇向上へむけて頑張つて行きたいと思ひます。

第三十三期福祉施設長専門講座を終えて



養護・特養老人ホーム八重山厚生園
園長 根間 武男

昨年度末、全社協中央福祉学院の当該講座に指名する旨、事務局から伝えられました。受講案内が届き研修レジュメを目にし、一年という期間等を考えた時、気を重くしたものです。与えられたテーマに沿った数千字に及ぶ二つのレポート提出、講師による可否の判定、延べ八日間の面接授業が修了書付与の前提条件であることは、前期面接授業で再三説明を受け、プレッシャーを感じたものです。

そしてこの二月、幸運にも合格のレポート評価を得て、後期面接授業後晴れて修了証書を手にし、安堵しました。

今般、講座は当初二百数十名の受講者を高年福祉関連施設、障害等四つのグループに分けた講義、グループワークが主で、講義は社会福祉施設の経営管理全般にわたり経営管理の基礎、施設長としての役割、サービスマネジメント、人事管理等々多岐で、凡人である小生には学ぶことが非常に多かった事も事実です。一年間の講座で学んだ多くの事を如何にして施設で展開できるか、自らに与えられた課題への取り組みはこれからです。

定年退職者の挨拶



養護・特養老人ホーム 具志川厚生園
園長 照屋 政治

昭和四十七年三月十六日沖繩療育園に採用になり、後日、琉球政府（屋良主席）から辞令交付式に於いて、公立の安定性と民間の機能性を備えたのが、沖繩県社会福祉事業団の設立趣旨であり、自信と誇りを持って、入所者処遇の向上に努めるよう訓示を受け、感動したことが昨日のことのように思えます。

沖繩療育園（三回）をスタートに、よみたん救護園（二回）、北嶺学園、いしみね救護園（二回）、名護厚生園、都屋の里と勤務し、具志川厚生園をもって、三十七年間の事業団人生を大過なく定年を迎えることができました。

これもひとえに、数多くの上司の指導及び良き先輩・同僚の支えがあったからと心から感謝致しております。

最後に、事業団各施設利用者の快適な生活及び職員の健康並びに事業団の繁栄を祈念し挨拶とさせていただきます。

追伸： 施設は、職員一人一人が育て、発展させることが大切である。

障害者自立支援法施行に伴う 新事業体系移行に向けて

知的障害者更生施設 北嶺学園
園長 山 里 将 善

平成十八年十月一日に全面施行された障害者自立支援法の「自立と共生」、いわゆる「地域移行」の理念に沿った新たな事業体系への移行（平成二十二年四月一日）を命題に、職員総力で奮闘しているところです。

取り組みとしては、先ずイメージ造りとして新法を理解するための解説書を紐解き、更に可能な限りの情報等を収集することで、四ヶ月後の八月頃に何とかイメージとして描けるようになったことから、既設の新体系移行検討委員会の委員に全職員を指名し、課題、問題点等の共有を図るべく毎月二回の検討委員会を開催、その結果、移行に向けての方向性が見えてきたところです。

課題が山積する中、特に農場整備については農業専門家等の絶大なるご協力のもと、生産活動のひとつである農耕の拠点としての農場が完成

し、育苗した島唐辛子を四月に植え付ける予定です。このように多くの方々の支えによって少しずつではありますが移行に向けて確実に進んでいる状況です。移行前年の二十一年度は膨大な準備作業等の詰めの一年として極めて重要であることから、円滑な移行を目指して職員一同気合ひとつにして更に取り組みを強化してまいります。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い致します。



排泄ケア活動状況

重症心身障害児施設 沖繩療育園
介護員 太田 信也

沖繩療育園では、昨年六月より排泄ケア向上委員会を設置し、利用者の尊厳を守り、人間らしく快適で豊かな生活をするという視点から考える個別排泄ケアの実現を目的に活動を行っています。

当初、排泄ケアアドバイザーによる講習を受け、個別のアセスメント、個別の排泄状況等を把握した上でスタートしましたが、変形や拘縮を伴う利用者様については側臥位での漏れが多く、おむつ交換に時間を要した事もありました。その中で、課題も見つかりアドバイザーの助言を受けながら、個別におむつの当て方やおむつの種類サイズ等の見直しを行い、職員間で試行錯誤しながら対応している所です。また、医療看護、栄養士等の他職種と連携を図りながら、水分量、服薬調整等、利用者個々に合った排泄ケアが出来るよう向上委員会でも検討し、現場スタッフ全員で取り組んでいきたいと思っております。

現在では、漏れも少なくなり、業務の流れもスムーズになっていきます。今後も課題に対応しながら、最適な個別ケアに向け努力したいと思っております。

県外視察研修の報告

知的障害者更生施設 あげぼの学園

管理課長 浜川 洋光

今回の施設視察は、漲水・あげぼの学園の新体系移行への事前準備のため、事務局、北嶺学園の職員と共に、同法の先進地域である横浜市を視察しました。併せて漲水・あげぼの学園は、全面改築の構想もあり、建物がどのような構造形態にもなっているかも視野に入れている視察となりました。

私たちが視察した施設は、数年前新体系へ移行しており、各施設とも入所支援施設、ケアホーム、グループホーム等多角的で色々な事業を展開しています。

羨ましく思った事は、各施設とも職員配置が国の基準よりも多く配置されていることです。聞くと横浜市が加配分について補填しているとの事でした。建物は各施設ユニット形式が採用され非常にゆったりとした造りに感じました。今回の視察を通して漲水・あげぼの学園は、新体系移行及び改築に向けての指針としていきたいと思えます。



リスクマネジメント講座報告

養護・特養老人ホーム 具志川厚生園

生活支援課長 知花 進

初級リスクマネージャ2008を受講させていただきました。リスクマネジメントとは何か、事故の要因・分析再発防止策等が

前期講座、後期は業務手順書・個人情報保護・苦情相談対応・事故発生時のリスクマネジメント対応について学ぶことができました。

利用者支援の安心・安全なサービス提供の中で事故要因(ハード・ソフト面)にいかに関心があつて、気が大ききポイントであり、気づきに対処しよう組織で対応出来るかが重要であります。又これまでも利用者視点のサービス提供と認識はしているものの、しっかりとした業務手順書によるサービスが提供されていない状況を再確認し、改善に向け早急に取り組めます。

今回の研修で施設内のリスクをいかに見直し、対策を利用者視点で改善していくのかという課題を改めて痛感しました。利用者視点でのサービスを提供し、安心・安全で快適な施設支援を職員で提供して行きたいと思えます。研修の機会を与えていただき感謝します。

ビジネスマナー研修について

皆様は「あいさつ」をしていますか。そんな当たり前のことを何で今更におっしゃるかもしれません。そのとおりです。

私たちが社会で生きていくためにあいさつは不可欠なものです。しかし実際はどうでしょう。職場や家庭できちんといさつができていますでしょうか。

昨年、九月に全施設を対象に施設利用者満足度アンケートを実施しました。その中である施設の利用者のご家族より「職員のあいさつが少ない」「一部の職員は食事介助中も利用者へ話しかけることなく、黙々と介助を続けている」との厳しい指摘がありました。

我々、福祉サービスを提供する職業人(プロ)は利用者へのごあいさつと、心を込めて優しく話しかけるといふことは当たり前のごとであります。

旅行に行きホテルで宿泊するとき、ドアマンやフロント係があいさつもせず、黙っていたら、どう感じますか。また、レストランに出かけたとき、「いらっしゃいませ」のあいさつもなく、注文を取りに来なかつたらどう感じるでしょうか。不安と不満で大抵の人は「二度と来るもんか」と思うはずですよ。

さて、事務局では今年度より、外部コンサルタントに協力を依頼して全施設でビジネスマナー研修を実施しました。次年度も継続して実施する計画をしております。継続して実施することで講師に当事業団の利用者や職員また施設の雰囲気について理解をいただき、その上で施設の職員に適したビジネスマナー研修が実施できることを目標としております。



その研修の中で講師が「ホスピタリティー」(おもてなし、接待)の語源は「ホスピタル」(病院)、「ホスピス」(末期がん療養施設「ホテル」)、「ホスト」「ホステス」と同じだと述べられました。

私たちは福祉サービス業として、利用者に一流ホテル並の最上級の「おもてなし」を提供することが最大の目標であり、使命だと考えます。

その第一歩として最も基本でかつ欠くことのできない「あいさつ」と「思いやりのある話しかけ」に取り組みする必要があります。また、それがごく自然にできることが大切です。そのことが利用者やご家族に安心感を与えて信頼を得ることにつながります。

日々の忙しさに追われて、基本を忘れていませんか。今一度、当たり前の基本を再確認する必要があります。

利用者やご家族へのあいさつだけではありません。職員間のあいさつもまた然りです。ある施設の先輩職員は最近の若い者(後輩)はあいさつをしなないと話していました。果たして先輩は普段から後輩に対して積極的にあいさつや話しかけを行っていたのでしょうか。

あいさつは挨拶の「挨拶」は「開く、近づきあう、せまる」の意味です。「挨拶」も同じく「せまる、引き出す」の意味があります。あいさつは「自分の心を開き、相手に近づいて、相手の心に迫る」ことです。あいさつがないと、いい人間関係は築けません。

「我以外は皆我師」の謙虚な気持ちをもつて相手を尊重して「あいさつ」話しかけを行えば、良好なチームワークの醸成が期待できます。

ビジネスマナー研修で習得したことを活かして利用者やご家族と、また職員間のよりよいコミュニケーションを築いていきましょう。そのためには常日頃から「笑顔」で「相手の目を見て」からの「誠意あるあいさつ」を心がけたいものです。

(記事：事務局 企画課長 井口 智)

丑年男・年女語り広場



名護厚生園 支援員 上原 円

名護厚生園に勤めて、もうすぐ二年目になります。仕事にも少しずつ慣れてきましたが、まだまだ学ぶ事がたくさんあります。そして、今年「年女」という事もあり、人と人との関わりを大事に、コツコツ努力し飛躍の年になるように頑張りたいです。



沖繩療育園 介護員 花城 裕康

早くも三回目の年男になりました。二十歳を過ぎると月日が経つのが早く感じると言われますけど、私も三人の子宝に恵まれ、ちよつとだけ立派な父親になっているのではと錯覚している日々を過ごしています。今年も、これからも錯覚していきけるように、楽しく健康でありたいと思っていますので、今後もよろしくお願いします。



名護厚生園 介護員 儀保 笑美

私が事業団職員として採用され、早いもので十五年が過ぎようとしています。先輩職員の下で楽しく学びながら仕事をしていた頃から一転、現在中堅職員として介護職に従事する事の厳しさ、難しさを日々実感しています。利用者の笑顔をやさす事のないよう、常に向上心を持ち、自身が成長していけるよう頑張っている今、穏やかな日々を過ごそうと思っています。



八重山厚生園 介護員 後原 齋

月日が経つのは早いもので、事業団に採用されて二回目の「生り年」を迎える。あれから二十年。走馬灯のように時間が経過し、沖縄県民に昔から親しんでいる三線を通しながら日々利用者として過ごしています。これからも、全ての方々への安らぎと生きがい対策づくりに、全力で貢献、援助できよう努めていきたいと思っています。



都屋の里 看護師 玉城 ルリ

うし年生まれに抱く感じ。のんびりと草を食み、流れる雲を目で追いながらあくびをする。そんなゆつたりしたイメージの一年になればと願う。なぜか遠いラテンの国の闘う牛の様に、突っ走ってしまいう悪い癖を排し、穏やかに和やかに「仏の玉城」と言われるよう泰然と笑みを湛え今年を送る。少しハードルを上げすぎた。実現可能な事を目標としよう。



沖繩療育園 調理師 渡慶次 功

平成二十一年も早いもので、四月からの新年度に向けて職員の皆さまは忙しい時間を過ごしていることと思います。昨年は、当園の近くに大型ショッピングセンターも出来、職場を取り巻く環境も様変わりし、時間の流れの早さに驚いています。私自身は、時間の早さに流されるのではなく、初心にかえって、一步一步自分のペースで前に進んでいきたいと思っています。

施設長リレーエッセー

酒の肴(ツマミ)話

養護・特養老人ホーム 宮古厚生園 園長 平良 洋治

タバコをやめてから四年余りになる。その反動で体重が十二キロも増え今では、メタボリックの零腹である。一念発起で三年ほど前から週三日ウォーキングをしているが、いつこうに変化がない。ウォーキングするようになってから体調がよく、酒が以前に比べ少し飲めるようになった。そのため酒座へ出かける機会が多くなり、ますます大変である。

先日二月十三日にレポーターより「施設長リレーエッセー」の執筆を二十日までにと告げられ、仕事の話以外は話題の乏しい己の教養の無さを嘆きながら「そんなの関係ない」で、機会の多くなった酒座での肴(ツマミ)話を書いてみる。

ゴルフ好きなアゲ(同窓)が集まって月一回コンペを行いアゲの絆を深めている。この年になると時間的、経済的にもゆとりが見られ、参加者も多くの十九番ホールも賑やかに盛り上がる。

ひとりが「俺心配さあ 近頃、物忘れがひどくなつて 今日もグリーンでクラブを二回も忘れて大変だった。アールハイマーかなあ」と言うのと、「大丈夫心配するな、アーノルド・パーマーとは違うお前はゴルフは下手だから」と励まし、また「お前は、まだいい方さ

あ 自分はおつとひどい。ゴルフ場(市街地から車で三十分)に着いてからゴルフバッグを忘れたと思いつ中の植物園(市街地から車十分)まで戻った。」と慰める。

詳しい話はこうである。ゴルフ場の玄関に車を着けトランクを開けてバッグを係員に下ろして貰い、車を駐車しカウンターで受け付けていた時に、今日、来る途中メイクマンで買ったボールを車内に忘れたことに気づき、取りに戻るとトランクが少し開いていたので閉めようとするとトランクの中にバッグがないので、「しまった。バッグを忘れた。」とパニックになり、すぐさま車を走らせたとのことである。車中あれこれ考えながら植物園の近くまで来たとき、幹事から携帯に電話があり「スタートするけど、どこにいるの?」との連絡である。バッグを忘れたので家に取りに戻る途中であること話すと「お前のバッグはカートに積まれてあるけど。」との返事である。それを聞いてお互い大笑し、ゴルフ場へ急いでバックしたとのことである。

大爆笑で場が盛り上がり「俺は、ゴルフを終わって家に着いてゴルフ場から電話があるまで、バッグを忘れたことに気づかず翌日取りに行った。」と自慢が出てくる始末です。この様にアゲ同士で、好きなゴルフを通して和気あいあいと還暦を間近にした人生を謳歌している。アゲの Motto は「健康で七十歳までゴルフをしよう。」である。

私の趣味 (仲間との野菜作り)

養護・特養老人ホーム 八重山厚生園

利用者 川 満 正 昇

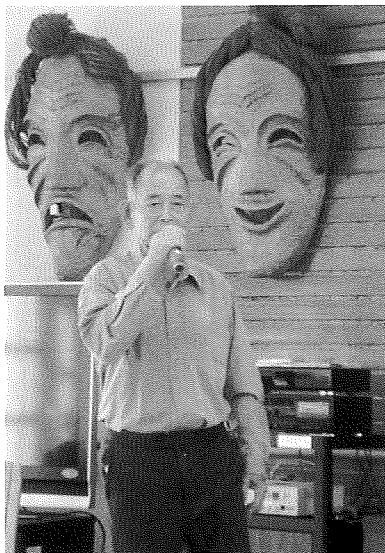
私の趣味は仲間と一緒に野菜作りをすることです。

職員と一緒に畑の耕しを行い、その後は仲間と畑の管理を行う。(肥料・うね作り・苗植え・朝夕水まき・雑草取り・収穫・収穫野菜の選別)など。仲間と一緒に汗をかき協力し合って楽しく野菜作りを行っています。

収穫が多い時は養護の利用者にも収穫野菜の選別を手伝ってもらいます。

初めは六名の仲間と野菜作りを楽しんでいましたが高齢化・病気などで仲間も徐々に減ってしまいました。私も無理をせずこれからは仲間と共に野菜作りを続けていきたいと思えます。

現在、私は入所して六年になります。これからも、週一回のデイサービスの利用と園の年間行事などに進んで参加し、仲間と健康づくりを兼ねながら野菜作りの趣味を続け楽しい園生活を送っていききたいと思えます。



おもしろレシピ紹介

「沖縄もずくは栄養の宝庫」

救護施設 いしみね救護園

栄養士 山内久美

もずくは、ミネラルや食物繊維がたっぷりと含まれています。しかも低カロリー食品で、美容と健康を育てるパワーがあります。

もずくは料理しにくいし、メニューはいつも同じな～んて、ことはありませんか？
もずくをもっと手軽に食べましょう。

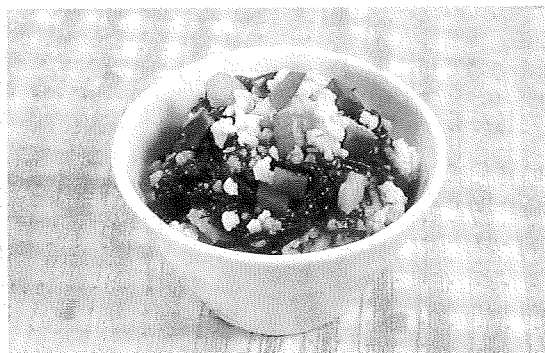
もずくのおもしろレシピ「もずくどんぶり」

材料(3人分)

- ごはん……………600g
- 塩抜きもずく…120g
- 豚挽肉……………120g
- 生姜汁……………小さじ1・1/2
- 片栗粉……………大さじ1
- 水……………大さじ1
- A { 酒……………大さじ1
- しょうゆ…………大さじ1
- 三温糖……………大さじ1
- みりん……………大さじ1・1/2
- 水……………適量
- 青ピーマン………30g
- 赤ピーマン………30g
- B { 卵……………3個
- 酒……………小さじ1
- 三温糖……………小さじ1
- 塩……………少々

作り方

- ①Bの分量で入り卵を作る
- ②ピーマンはみじん切りにして茹でる。
- ③塩抜きもずくは洗って、水気を切り短く切る。
Aの調味料を煮立て、豚挽肉を入れて煮る。
火が通ったら、もずくと生姜汁を加え、水溶き片栗粉を入れてトロミをつける。
- ④熱いごはん①と②を混ぜ合わせる。
(少し残しておく)
どんぶりに盛り、③を中央にかける。
さらに少し残しておいた①と②を盛りつけ
出来上がりです。



元気の源



重症心身障害児施設沖繩療育園
介護員 古波蔵 尚子

ボウリングのリーグって知っていますか？私は、数年前までその存在を知りませんでした。ボウリング自体、皆で楽しく飲むための余興でしかありませんでした。そんな、特に好きでも嫌いでもない、スコアも良い訳でもないこのスポーツの、しかもなぜかリーグに参加から三年になります。それは、リーグが好きだからです。

いつも、チームの足を引っ張ってしまいますが、たまに(年に一回くらい)ミラクルが起きます。思い通りの打球ができて、勝った日は、そりゃもううれしいです。でも、勝敗に関わらず、毎回楽しいです。

リーグには、老若男女、様々な人が参加します。皆、互いに応援し合い、からかい合い、楽しむことを忘れません。私は、彼らから元気をもらいます。そんな訳で、私は下手でもリーグに参加し続けるのです。

私の好きなもの



児童養護・知的障害児施設 漲水学園
児童指導員 仲間 勝之

私の人生にとって囲碁は、とても大切なものである。また、大会等で対局を終えた後、囲碁談義しながら酒を酌み交わすのも楽しい。勝負でほてつ

た頭と身体をクールダウンさせることで明日からもっと勉強して強くなろうという活力が湧いてくる。囲碁を趣味として自覚し本格的に打ち始めてから三十年程になるだろうか。囲碁に熱中し没頭して多くの時間を費やし、これだよいかと不安になった時期も時々ありましたが、今では囲碁は私のなかで、人生の教科書道標的な位置を占めている。このような素晴らしい囲碁に出逢えたことに、心から感謝しています。真摯な気持ちで平常心で盤面に向かい石を打ち下ろす。これまで見えなかった情景がみえた時の感動。

わたしの自由空間

職員を巻き込んで

救護施設 よみたん救護園



出納員 上原 昭彦



介護員 山田 義明

私たちのストレス解消のひとつは、ボウリングです。投げたボールがストライクゾーンに入りピンを弾け倒す音が爽快な気持ちにさせてくれます。ボウリングを始めた切掛けは、二人とも友人の誘いからでした。当初は、ス

私の趣味



婦人保護施設 つるま婦人寮
生活指導員 小橋川 博康

最近の私の趣味は、民事争いをバラエティ風に扱っている番組を視聴する事です。特に毎週土曜日午後十二時十五分からNHKで放送している「生活笑百科」は落語家の笑福亭仁鶴さんが司会を務め、毎回二組の漫才コンビが漫才仕立てで相談に来ます。例えば、遺産相続に関して、遺産が貰えるか貰えないかを相談に来て陪審員の二人が、

貰えるかと考える、貰えないと考えることについて笑いを誘いながら主張し、それに対してゲストの芸能人が、どの意見に賛同するか判断します。そして最後に、司会が弁護士に「この問題は法律的にはどうなっていますか」と伺うと法律的根拠について説明し結果を発表すると会場がどよめいたりします。私も人情と法律のギャップを痛感する時があります。そして、時々この番組等で得た豆知識を公私共に活用しています。

JKA競輪補助による

福祉車輛の購入

介護老人福祉施設 名護厚生園

このたび財団法人JKAから、平成二十年度競輪補助金の交付を受けて、福祉車輛を購入いたしました。財団法人JKAをはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様、誠に謹んで感謝の意を表します。ありがとうございます。



開園記念ウォーキング大会

知的障害者更生施設 あげぼの学園
生活支援員 上原 周 作

春風漂う二月の空の下、暖かい陽気に恵まれ、私達は、あげぼの学園開園記念(二十二年目)に合わせ、あげぼの学園利用者さん、保護者会、職員の総勢五十名程で、地域にある海水浴場(トウリバー)をスタート地点とした学園までの四・五キロの距離を、皆でウォーキングしました。途中で、給水地点を設けながら、それぞれのペースで完走を目指し一生懸命頑張り、利用者さん各自の体調に合わせたそれぞれのゴール地点まで、皆さん無事完走する事ができました。

また、ウォーキング大会後には、利用者さんが学園内農場を利用した作業日課で育てた野菜を使った料理(ソーキ汁)を、昼食で食べる事ができ、利用者さん、保護者会、職員ともに、とても満足した開園記念日となりました。



施設だより

ぎのわん車椅子マラソン大会

身体障害者療護施設 都屋の里
生活支援員 松田 節 夫



十二月十四日、宜野湾市で開催された第三十回ぎのわん車椅子マラソン大会は、曇り空に時折薄日が差す天候の下、熱戦が繰り広げられました。

都屋の里の利用者は、トリムの部の手動車椅子の部に一人、電動車椅子の部に二人参加しました。電動車椅子の部に出た二人は、多勢の混雑の中をスイスイと間を抜けながら完走されました。手動車椅子の部に出た方は、息を切らしながらも、自分のペースで力強く走り切りました。

今年には応援に家族も駆けつけてくれて、声掛けをしながら伴走もしてくれて、選手も心強かったと思います。又、沿道の人達からも、名前で応援を受けながら選手達も笑顔で応じて気分よく走れたと思います。想定申告タイムよりも早く走り、残念ながら入賞する事は出来なかったが、帰りの園車の中では、早くも来年に向けての決意も聞かれ意欲満々でした。来年も頑張りましょう。



クリスマス・忘年会

養護・特養老人ホーム 名護厚生園
生活相談員 比嘉 美由紀



去る平成二十年十二月二十四日、当園においてクリスマス・忘年会を実施しました。利用者の余興として、ハーモニカ、電子ピアノの演奏が披露されました。始めは、緊張した表情でしたが、最後には笑顔も見え、会場には拍手があり、会を盛り上げてもらいました。

また、各セクションの職員による、合唱、琉球舞踊、創作ダンスを披露しました。飛び入り参加で、利用者の御家族も舞台上がり職員とともに余興をする一幕もあり、会場が、笑いと拍手につつまれました。多くの笑顔の中、最後はカチャーシーにて賑やかに幕を閉じ、楽しいひと時を過ごすことができました。

今後、利用者の皆さんが満足していただける様な行事を実施し、素敵な笑顔が増えるよう職員一同頑張りたいと思います。



和やかに新年会

婦人保護施設 うるま婦人寮
生活指導員 小橋川 博 康

平成二十一年一月十六日に「新年会」が行われました。会場作りは利用者・職員が意見を出し合いわきあいあいに行なわれ華やかな会場が出来ました。

幕開けに職員が「かぎやで風」を披露し、寮長から御屠蘇の由来等豆知識を交えた挨拶がありました。その後乾杯の音頭をへて、楽しみにしていた食事タイムが始まりました。メニューは利用者のリクエストを取り入れたので、皆満足の様子でした。

お腹も一杯になって職員・利用者一緒にダンスやカラオケを行い、飛び入りで同伴児がカラオケを歌う等、あっという間に楽しい時間は過ぎていきプログラムに予定していた今年の抱負を聞けずじまいでしたが、皆目標達成に向け輝いていました。

